

# JAPIC NEWS

2007.  
月号  
(No.273)



## CONTENTS

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 新年のご挨拶 「事業内容の充実と公益性」               | 2  |
| 財団法人日本医薬情報センター会長 上田 慶二             |    |
| 《インフォメーション》                        |    |
| 第127回薬事研究会開催案内                     | 4  |
| JAPIC-Qサービスユーザ会開催                  | 4  |
| 第35回JAPIC医薬情報講座開催案内                | 5  |
| 「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2007年1月」発売 | 6  |
| 《トピックス》                            |    |
| JAPIC/IMIC合同セミナーを開催                | 7  |
| 理事会の概要報告                           | 9  |
| 《シリーズ》                             |    |
| 東南アジアの医療事情(9) ブータン①                |    |
| 幸せの王国 ―すべての医療は無料                   |    |
| JICAシニア海外ボランティア 土屋 自佑              | 10 |
| 《図書館だよりNo.199》                     | 13 |
| 《12月の情報提供一覧》                       | 15 |

## 事業内容の充実と公益性



財団法人日本医薬情報センター  
会 長

上 田 慶 二

(Ueda Keiji)

皆様明けましてお目出とうございます。ご家族お揃いで明るく楽しいお正月をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

21 世紀も早や 8 年目となり、我々を取り巻く日本の現状も目まぐるしく変化し、社会的にも種々の改革が進められようとしております。皆様には今年度も新しい計画と希望をお持ちのことと拝察いたします。

近年、医療面におきましても再生医療、遺伝子治療、分子標的医療、抗体医療やアンチエイジング医療などの諸方面における進歩とともに医薬品や医療機器などの目覚ましい発展もみられるようになり、病める患者さんの実際の治療面においても大きな改善が期待し得るようになりました。

また IT 技術の進歩・普及により、医療情報の伝達・普及にも目覚ましい変革が認められるようになり、多くの情報が多くの方々へ迅速に伝えることが可能となりました。すなわち従来紙媒体で伝

達されていた情報が電子的に迅速に、広範囲に伝達できるので、これらの手段の効果的利用が必至と考えられるようになりました。

このように時代が進歩しましても、我々医薬品産業やその周辺の事業に関わる者にとりまして極めて重要な課題は常に医薬品の安全性の確保のための努力であり、**patient safety** を達成することについて最大限の尽力をすることです。国際的には ICH においても医薬品の安全性確保に関する種々のガイドラインを公表しております。最近、厚生労働省と（独）医薬品医療機器総合機構におきましては、「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を公表し、重篤な副作用の速やかな検出と対応を援助しておりますし、また「データマイニングの手法」の導入を計画して、副作用・不具合の発生または発生前の検出を図ろうとしております。しかし医薬品の安全性確保は単に承認後の医薬品・医療機器に限らず、開発途上の物質についても要求される条件であります。最近、英国においてみられた TNG1412 第 I 相試験の事件が今後に大きな課題を残したことは皆様の記憶に新しいことであり、医薬品に関わる者一同が教訓として学ぶべきことが多くあります。

このように医薬品の安全性確保は、医療用医薬品のみでなく、一般用医薬品についても同様であり、全般にわたり安全性確保の方策については各方面の関係者が常に努力し、その方策の改善に努

めることが必要であることは申すまでもありません。

こうした見地から日本医薬情報センター（JAPIC）では、平成 19 年度においても引き続き会員の皆様とともに当財団をご利用になる一般の方々に役立つ広範な医薬品情報の迅速な提供に努力する所存であります。また可能な限り多くの皆様にご利用頂けるようご利用に際する費用の低減にも努めて参る所存であります。

なお、情報の伝達・普及が従来の紙媒体より電子媒体へ急速にシフトしていることを踏まえ、我々の事業に関しても電子的媒体の内容の充実を図る計画であり、その目的の達成のため職員の研修並びに技術の向上に努めております。

JAPIC は医薬品の開発、承認ならびに販売の各段階での情報を収集し、加工し、公表しております。出来るだけ多くの方々に会員になって情報をご利用頂きたいと希望し、昨年 4 月から医療機関・大学等の会費の値下げ、G 会員の設置などを行い、会員増加の努力を続けております。また会員以外の方々にも必要に応じてご利用頂けるよう工夫をしているところであり、“日本医薬情報センター（JAPIC）”の名称がその役割と共に医薬関係並びに教育関係の方々に広く周知されるよう努力する次第です。

JAPIC では平成 18 年に引き続き「医療用医薬品集」、「一般用医薬品集」及び「添付文書記載病名集」の冊子ならびに CD-ROM の一層の普及に努力するとともに「医療用医薬品集」の更新情報の web での伝達に一層努める所存であります。

また近年医療機関等において事業の電子化に伴い、電子カルテを使用する医療機関が拡大する

傾向が顕著となりましたので、かかる情勢下で活用され得るデータベースとして医療用医薬品の薬品名及び添付文書の効能・効果と病名 ICD10 コードをリンクした病名データベースを充実し、日本で最高水準の正確性と迅速性を掲げて普及に努力する次第です。

JAPIC-Q サービスは JAPIC の事業の大きな柱とも言えるべき業務であります。今後会員のご利用の皆様の利便性を考慮し、ユーザー個々のご要望に応じた業務の実施やご利用に際する料金についても一部値下げの検討をいたしたいと存じます。

iyakuSearch 事業につきましても医療用医薬品ならびに一般用医薬品の添付文書の更新を常に維持して、一層の事業内容の充実を図って参る所存です。

近年、財団法人に関してその公益性を厳しく問う動きがあります。当財団におきましても、医薬品情報の配布対象を製薬企業はもとより、医薬教育機関、医療機関、薬剤卸業界、薬局などにも拡大し、公益性を一層高めるよう尽力している次第であります。今後の事業のあり方につきご卓見をお伺い出来れば幸いです。また我々 JAPIC の職員一同がサービス機関としての自覚を常に持ち、医薬情報の提供業務を的確に、迅速に行うよう常に自覚して努力することをお誓い申し上げます。終わりに当たり、本年も皆様にとって幸せの多い良き 1 年でありますようお祈りいたします。

# Information

## 第 127 回薬事研究会 開催案内

薬事研究会を下記により開催致しますので、貴社ご関係の方々にご連絡のうえ多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

平成 17 年 4 月に改正薬事法が施行され、新たに「製造販売業」が新設されました。製造販売業者は許可要件としての GQP、GVP への対応が必要です。今回の薬事研究会では、医薬品製造販売業許可更新時の留意点について（GQP、GVP の体制等を中心に）、および薬事監視指導全体について、講演していただきます。

日 時 平成 19 年 2 月 8 日（木） 13:30～16:00  
場 所 星陵会館ホール （東京都千代田区永田町 2-16-2） 03-3581-5650  
講 演 (1)「薬事監視指導の現状」（仮） 厚生労働省医薬食品局監視指導課  
(2)「医薬品製造販売業許可更新時の留意点－東京都」（仮） 東京都福祉保健局

参 加 費 1 名 3,000 円（JAPIC 会員機関の方） JAPIC 非会員は 1 名 5,000 円  
当日会場でいただきます

申込方法等 JAPIC ホームページ（<http://www.japic.or.jp>）に掲載の申込書に必要事項をご記入の上、メール（[gyoumu@japic.or.jp](mailto:gyoumu@japic.or.jp)）または FAX（03-5466-1814）にて平成 19 年 1 月 31 日（水）までにお申し込み下さい。

## JAPIC-Q サービスユーザ会開催

「平成 18 年度 JAPIC-Q サービスユーザ会」を下記のとおり開催いたします。JAPIC-Q サービスユーザの皆様には、別途詳細なご案内と申し込み用紙をお送りいたします。多数のご出席をお待ち申し上げます。

開催日・会場 平成 19 年 1 月 29 日（月） 東京 長井記念ホール  
平成 19 年 1 月 31 日（水） 大阪 薬業年金会館

### ◆ 年末年始休業のお知らせ ◆

年末年始休業：平成 18 年 12 月 29 日（金）～平成 19 年 1 月 4 日（木）

新年は 1 月 5 日より業務を開始いたします。

# 第 35 回 JAPIC 医薬情報講座を開催します

## テーマ：「医療の安全対策と医薬品情報」

日 時 : 平成 19 年 3 月 1 日 (木) ～ 2 日 (金) 2 日間  
場 所 : 日本薬学会長井記念ホール (東京都渋谷区渋谷 2-12-15)  
定 員 : 毎日の定員は 150 名  
申込方法 : 参加者 1 名毎に、参加申込書に必要事項をご記入の上、2 月 23 日 (金) までに FAX (03-5466-1814) または Mail (gyoumu@japic.or.jp) でお申込み下さい。  
(JAPIC ホームページ <http://www.japic.or.jp> からダウンロードできます)  
参 加 費 : 1 人 1 日ごとに、10,000 円 (JAPIC 会員は 5,000 円)

**[プログラム案]** 詳細は次号でお知らせします。

### 1 日目 平成 19 年 3 月 1 日 (木)

10:00 ～ 10:10 理事長挨拶

10:10 ～ 11:00 行政の最近の動き 厚生労働省医薬食品局安全対策課

11:00 ～ 11:50 医薬品医療機器総合機構安全対策の取組み

13:30 ～ 14:30 重篤副作用疾患別対応マニュアル

14:30 ～ 15:30 消費者からみた医薬品安全対策

15:50 ～ 16:50 医療事故情報収集等事業  
(財)日本医療機能評価機構・医療事故防止センター

17:00 ～ 18:30 懇親会 (長井記念館ホール・ロビー)

### 2 日目 平成 19 年 3 月 2 日 (金)

10:00 ～ 11:00 薬剤サイドエフェクトとバイタルサインの評価  
早稲田大学大学院教授 西村 敏博 先生

11:00 ～ 12:00 癌対策情報センターの取組み  
国立がんセンター 柴田 大朗 先生

13:30 ～ 14:30 ナノテクノロジーを利用した DDS  
ナノキャリア(株)取締役 CSO 加藤 泰己 先生

14:30 ～ 15:30 日本中毒センターの活動  
日本中毒情報センター 大阪中毒 110 番 遠藤 容子 先生

15:50 ～ 16:50 癌専門薬剤師の取組み  
国立がんセンター薬剤部 北條 泰輔 先生

# JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版

## 2007 年 1 月末に発売

来る 2007 年 1 月末に、“JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版 2007 年 1 月” を発刊いたします。今版についても **2007 年 1 月上旬**（予定）までの最新情報を収録すると共に YJ コード検索機能の追加等の機能面の強化を行っております。

（2006 年 10 月版より「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版」に名称変更いたしました）



本 CD-ROM（Win・Mac 両対応）の仕様は次の通りです。

### ● 収録データ

**医療用医薬品データ：**2007 年 1 月上旬（予定）時点の医療用医薬品添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び薬価データを収録

**一般用医薬品データ：**2006 年 3 月一般用医薬品調査に基づいたデータを収録

### ● 搭載機能

自由語検索として医療用薬、一般用薬、その両方の同時検索機能及び（医療用薬）薬剤識別コード検索機能を搭載し、添付文書本文情報を表示します（参考情報として医療用医薬品添加物データ表示機能、iyakuSearch 医療用薬添付文書 PDF のリンク・表示機能を搭載）。

#### ◆◆◆ 今版より YJ コード検索機能を追加いたしました ◆◆◆

また、医療用医薬品本文内容を取り込んで**院内採用医薬品集**として編集することができます。その編集内容は、出力して印刷、または更なる編集素材として利用でき、また、採用品データを共有あるいは次版へ引き継ぐことができます。

また、YJ コードリストから採用品への一括登録ツール（Win 専用）を CD-ROM に収録しております。他ソフトウェア等で採用品をご利用されている方もデータ共有にご利用ください。

### ● 価格・お申し込み

1 枚 15,000 円（税・送料込）、あるいはお得な年間セット（1・4・7・10 月版のセット）を 25,000 円（税・送料込）で提供いたします。また、複数台をお申し込みの方は廉価で提供いたします。購入ご希望・お問い合わせは、事務局 業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、FAX：03-5466-1814）までご連絡下さい。



# TOPICS

## JAPIC/IMIC 合同セミナーを開催

テーマ：「最新テクノロジーと医療」



野口英世記念会館

2006年12月5日（水）野口英世記念会館にて、（財）日本医薬情報センター（JAPIC）と（財）国際医学情報センター（IMIC）とが共催で会員向けセミナーを開催しました。これは医学、薬学分野における両財団が各々の会員の方々へのサービス向上を検討していく中で企画されたもので、テーマを「最新テクノロジーと医療」として最先端の話題について3人の気鋭の先生方にお話をお願いいたしました。参加者は会員のみにも拘らず120人強と盛況でした。

IMIC 朝倉理事長より、近年の医療の進歩例を引きながら本セミナーの趣旨説明と挨拶が行なわれた後、「国産新型カプセル内視鏡の現状と展望」と題して慶應義塾大学医学部消化器内科・内視鏡センターの緒方晴彦先生より講演がありました。カプセル内視鏡は口から飲み込んで、消化管を通過しながらその内部を撮影することが出来、被験者にとっては苦痛を感じることなく検査できるという利点があります。

既にイスラエルのGIVEN Imaging社が世界に先駆けて開発し使用されているが、本邦でも国産新型カプセル内視鏡（OL-CP-001）が申請中であり、早ければ来年にでも許可の見込みである、という状況のようです。画像解像度の向上、光量の自動調節機能、リア

ルタイムで観察可能という特徴があります。カプセル内視鏡と小腸内視鏡、小腸X線で比較した治験データも説明され、特に小腸出血の観察には有用性が高いようです。一方問題点としては消化管狭窄部での滞留、画像数が多いために読影時間がかかる、等が挙げられていました。検査法の進歩ということで興味深い講演でした。

次いで「患者さんのためのマイ電子カルテ」と題して東海大学医学部基礎医学系医学教育情報学の大櫛陽一先生が講演されました。地域包括ケアの必要性の観点から、神奈川県足柄上医師会、三浦市医師会、茅ヶ崎医師会での実施、実例を引きながら「マイ電子カルテ」、「マイ電子健康手帳」の説明がありました。家庭のパソコン、ケータイでも手軽に自身の健康データを取り出せるということで患者さんに重宝がられているようです。特に電子カルテについては、長期通院継続者、連携医療対象者に加えて転勤の多い勤務者に利用希望者が多かったということ、又健康情報開示に加えて、医師に伝える機能があるので診察時間等に制限がある主治医とのコミュニケーション上好評である、との事です。これらのシステムが広がれば個人の病気、健康に関する情報が一まとめになっているので、転院時や履歴調査にも便利になると考えられます。

最後に「再生医療とアンチエイジング医学」の演題で慶應義塾大学医学部眼科学教室の坪田一男先生が講演されました。再生医療の一つとして、角膜上皮のステムセルの培養、上皮移植の先駆的な治療を報告されました。ステムセルを使った再生治療は眼科では角膜のみならず、網膜、視神経にも取り込まれているということです。一方再生治療の中心となるステムセルはエイジングと共に枯渇していくが、ステムセルの維持、分化誘導には活性酸素が重要な働きをしている。ステムセルを一生涯通してフェノタイプを保持していくことがアンチエイジング医学の基本である。次に加齢のメカニズムの有力な仮説「フリーラジカル・エイジング」説との関わりで、活性酸素からの非特異的防御について述べられました。目における活性酸素仮説として SOD1KO マウスでのドライアイの病状等の実験結果は興味深いことでした。再生医療とアンチエイジングという両極端のトピックですが、活性酸素の介在で意外な結びつきが述べられ興味深いことでした。また健康な若者から老人に至り諸々の病気が発生する過程で最初を **Therapeutic intervention** として抑えればよい、ということは、壮大な“目標”としてのテーマであるかも知れません。

今回の3演題に限らず、最先端の医療テクノロジーはどんどん進歩しており、有用な技術がある程度普遍化され広く使われ患者さんの医療に早く貢献することが望まれる、ということを参加者の方々は感じられたのではないかと思います。

最後に JAPIC 首藤理事長より講演の纏めと御礼の挨拶を行い散会しました。今回のセミナーは両財団初めての試みでしたが、両会員の皆様へのサービスとして何らかのお役に立てたのではないかと思います。(MY 記)



## 「理事会」の概要報告

さる 11 月 29 日(水)に第 104 回理事会を開催いたしました。議題は以下の通りであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

今回の主な議題でありました、「平成 19 年度事業計画策定の基本方針について」は、中期 3 ヶ年計画の最終年度として、重点事業を中心にして改善・発展させ 3 ヶ年計画の実施を纏めあげること承認されました。今後、この基本方針に基づき、平成 19 年度事業計画を作成して平成 19 年 3 月に開催予定の理事会・評議員会に提案いたします。

さらに、「維持会員における会費の見直しについて」は、製薬企業・卸企業の ABC 会員における会費の見直しについて議論をしていただきましたが、当分現行どおりのままで改定をしないこととなりました。

また、「企画運営会議の今後の運営について」は、現行の同会議は存続し、検討議題の範囲の一部見直しを行い、重要な事業に関する検討は、新しく発足させる「事業委員会」に移行することとなりました。「医薬文献・学会情報サービス (JAPIC-Q サービス) 料金の見直しについて」は、基本料金を値下げすることとなりました。

### ○「第 104 回理事会」 11 月 29 日(水) 15:30～17:05, 当センター3 階会議室

#### 《議 題》

1. 評議員の選任について
2. 維持会員・賛助会員の異動承認について
3. 平成 18 年度上期事業・収支状況報告について
4. 平成 19 年度事業計画策定の基本方針について
5. 維持会員における会費の見直しについて
6. 企画運営会議の今後の運営について
7. 会計処理規程の改正について
8. 医薬文献・学会情報サービス (JAPIC-Q サービス) 料金の見直しについて

#### 【評議員の異動】 (※敬称略)

退 任：西岡美由紀 (前 万有製薬 医療制度情報室長)

仲由 武實 (前 明治製菓 信頼性保証センター長)

松尾 紀彦 (鳥居薬品 代表取締役社長)

以上 11 月 29 日付

新 任：笠茂 公弘 (万有製薬 臨床医薬研究所 副所長)

木下 統晴 (明治製菓 信頼性保証センター長)

和田 昌師 (鳥居薬品 取締役執行役員)

以上 11 月 30 日付



## ブータン [1]

### 幸せの王国ーすべての医療は無料

土屋 自佑 (Tsuchiya Jiyu)

JICA シニア海外ボランティア

ネパールはこのシリーズの間にマオイストが武装解除に調印し、平和の道を歩き始めました。早くもとの平和な国に戻ることを願っています。

さて、前回の宿題の答えです。GNH とは Gross National Happiness(国民総幸福量)の略で、経済的發展を無条件に受け入れることよりも伝統・文化を重んじて幸福を求めるブータンが生んだ概念です。ブータンは GDP よりも GNH を優先させる国です。なんとなく分かりますが、深く考えると非常に難しい問題を私たちにつきつけています。

シッキム(インド)をはさんでネパールの東隣にブータン王国があります。国土は 46,500km<sup>2</sup>、九州の 1.1 倍の広さです。ネパールと同様に北は 7000m 級の山から南は 200m までと急峻な高度差を有する地形のため、動植物は多様性に満ち、薬草の宝庫と言われています。私はこの薬草の製品開発を目的に保健省伝統治療院で 2005 年 10 月より仕事をしています。

人口は昨年まで 37 万人とも 230 万人とも言われていましたが、2005 年にこの国で初めての本格的な国勢調査が行なわれ、63 万人と判明した小さな国です。首都ティンブーでは 10 万人の人口ですが、国土の約 1/10 を占めるガサ県ではたった 3000 人しかいません。他の途上国と同様に首都に人口が集中しています。

この国勢調査では他の国では見られない

調査をしています。冒頭に述べました幸福について「あなたは今幸せですか?」という質問に 96.8%の人が「幸せである」と答えています。なぜブータンの人々はこれほどまで幸せと感じているのでしょうか。その答えを私の任期中(2 年間)に見つけることが私の課題です。



写真 1 : JDW 国立病院

「すべての医療が無料である」ことが答えの一つかもしれません。ブータン人に限らず外国人に対しても同じで、私も何度か病院で無料の治療を受けました。自転車通勤をしています、下り坂で転んで大怪我をしました。すぐにこの国一番の JDW 国立病院に運ばれ、レントゲン、破傷風の予防注射、投薬、ついで臨床検査とすべて無料でした。この病院で治療できない病気はインドに搬送されそこで治療を受けますが、搬送費も無料になります。

ブータンには JDW (第 3 代王様の頭文

字) 国立病院<写真1>を国の基幹病院と位置付け、20 のすべての県に県立病院が設置されています。県立病院の下に村落単位の医療機関 BHU (Basic Health Unit) <写真2>がありますが、このレベルになると医師のいないところがほとんどです。さらに、コミュニティ単位の医療技術者が巡回する拠点の ORC (Out Reach Clinic)があります。この ORC は歩いて 2 日以内の場所にそれぞれ位置しています。



写真2：BHU (BHU は学校と併設されていることが多い)

JDW 国立病院には外国で医学を学んだ医師が MRI などの医療機器などを駆使して治療に当たっています。しかし、県立病院になると医師や技術者の不足から満足に治療が行われているとは言えません。不足する医師を育てるよりも、患者の臨床情報を基幹病院に集中させ、そこで診断、治療方針を決定させるテレメディシンを普及させることを考えています。末端の医療施設では診断機器(心電図、X線、超短波)のデータを、インターネットを介して JDW 国立病院に送り、送られたデータから医師は治療指針を戻すシステムを構築するために JICA はシニアボランティアを派遣させました。しかし、医師も不足しているけど、診断機器の技術者、コンピュータ技術者も不足していました。これらの技術者も育てることが必要です。数箇所の末端の医療機関でこのモデル事業が行なわれています。しかし、診断機器の記録用紙が無くなり機器が動いていない施設、データを送ったけど返事が来るのに1ヶ月もかかったり、と多くの問題点が見つかりました。<写真3>



写真3：テレメディシン用の心電図

この国の医療にはもう一つの特徴があります。ブータン政府は 2020 年までに伝統医療を国の医療のもう一つの柱にすることを考えています。ブータンの伝統医学はチベット医療を精確に受け継いだもので、その基幹施設として私の配属している伝統治療院(Institute of Traditional Medicine Services : ITMS)があります。

ITMS は伝統医師や伝統医学技術者を育てる教育部門、治療を行う部門、伝統医薬品の開発と製造を行う部門の3つの部門から構成されています。ここから伝統医師が毎年数名巣立ち、現在 20 の県立病院には伝統医師が 1~3 名配属されています。彼らは西洋医学の医師(こういう表現でいいの?)と同等の資格を有し、診断、治療ができます。2020 年までには主な BHU にも彼らを配属させることを目標にしています。伝統薬剤師は調剤業務の他にも医療補助者として針灸などの物理療法の施術者でもあります。

伝統医師の養成はチベット医療が記載されたチベット文字の仏教経典の丸暗記から始まります。病気や健康に関する概念が私たちとはまったく異なるために、これらの経典を英語に翻訳することが非常に困難です。ITMS 付属の博物館にはチベット医学の概念を表す曼荼羅が展示されていますので、ブータンを訪問された際には、見学をしてください。<写真4>

ITMS では約 300 種の薬草を原料にチベット医学の処方集(もちろん経典)から錠剤、丸薬、カプセルの形で製剤化された 100 種類の医薬品を製造しています。ここで製造された医薬品は一度、国の倉庫に収めら





写真 4：チベット医療の曼荼羅

れ、全国の病院に供給されます。「医療は無料」であることから、当然この医薬品も無料です。契約農家に薬草の栽培を委託して農家に現金収入が発生し、貧困解消に役立っています。しかし、薬草原料の調達以降は、製造コスト等については無頓着でまったくコスト意識を持っていません。これは ITMS だけでなく、すべての医療機関にも言えることで、自分たちの医療サービスが一体いくらかかるのか意識を持っている人は一人もいません。日本の技術者から見るとコストダウンのテーマが面白いように見つけられますが、ブータンでは必要とされていません。

保健省の予算の主な内容はほとんどが人件費と施設維持費です。その他はほとんど援助に頼っているのが現状です。



写真 5：看護師の制服  
(伝統衣装のキラを基にしている)

高額な医療機器は外国からの援助で、3K のきつい仕事には人件費の安いインド、ネパール人が働いています。ボランティア活動もブータン政府は技術移転よりもマンパワーを求めているような気がしています。ブータンは君主制の国で、国民のほとんどがチベット仏教徒です。長い間の鎖国政策により、手付かずの自然が残りと、昔ながらの伝統文化がそのまま残っている国です。国王は政治的リーダーとして多くの国民に慕われています。王様の一言で、この国には交通信号機がなくなり、禁煙の国になり、平日は伝統衣装を着るようになりました。私もゴという伝統衣装を着て仕事をしています。(写真 5)

(続く)

表：ブータンの統計的概要 (2005 年)

|       |           |                |           |
|-------|-----------|----------------|-----------|
| 人口    | 635,000 人 | 伝統薬剤師          | 36 人      |
| 識字率   | 59.5%     | 病院数            | 29 病院     |
| 平均余命  | 66.1 年    | 村落単位の医療機関数     | 176 施設    |
| 医師数   | 145 人     | コミュニティ単位の医療機関数 | 485 施設    |
| 伝統医師数 | 30 人      | ベッド数           | 1,078 ベッド |
| 薬剤師数  | 10 人      | 看護師数 (準看含む)    | 524 人     |

## ◀新着資料案内 ー平成 18 年 11 月 10 日～平成 18 年 12 月 8 日受け入れ▶

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC 附属図書館（電話 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

| 書名<br>著者名                                           | 出版社名                  | 出版年月        | ページ    | 定価      |
|-----------------------------------------------------|-----------------------|-------------|--------|---------|
| <b>American Drug Index 2007 51th ed.</b>            |                       |             |        |         |
| Norman F. Billups                                   | Wolters Kluwer Health | 2006 年      | 1,114p | ¥13,430 |
| 商品名のもとに会社名、一般名、組成、剤形、作用等を簡単に記載している医薬品名事典。           |                       |             |        |         |
| <b>中華人民共和国薬典 臨床用須知 化学薬和生物制品巻 2005 年版</b>            |                       |             |        |         |
| 国家薬典委員会 編                                           | 人民衛生出版社               | 2005 年 12 月 | 1,120p | ¥10,447 |
| 中華人民共和国の薬局方。化学薬品、生物学的製剤等 1,350 余種を収載。               |                       |             |        |         |
| <b>中華人民共和国薬典 臨床用薬須知 中薬巻 2005 年版</b>                 |                       |             |        |         |
| 国家薬典委員会 編                                           | 人民衛生出版社               | 2005 年 12 月 | 891p   | ¥7,822  |
| 中華人民共和国の薬局方。中成薬 1,420 余種を収載。                        |                       |             |        |         |
| <b>保険薬局業務指針 2006 年版</b>                             |                       |             |        |         |
| 日本薬剤師会 編                                            | 薬事日報社                 | 2006 年 8 月  | 523p   | ¥4,200  |
| <b>医療機器承認便覧平成 18 年版</b>                             |                       |             |        |         |
| 薬務公報社                                               | 薬務公報社                 | 2006 年 11 月 | 163p   | ¥4,200  |
| <b>医療薬学フロンティア 医療制度とマネジメント編</b>                      |                       |             |        |         |
| 日本医療薬学会 編                                           | 薬事日報社                 | 2006 年 9 月  | 154p   | ¥2,415  |
| <b>医療薬学フロンティア 医薬品情報と薬物治療 編</b>                      |                       |             |        |         |
| 日本医療薬学会 編                                           | 薬事日報社                 | 2006 年 8 月  | 187p   | ¥2,625  |
| <b>医療薬学フロンティア 疾病と薬物治療編-II</b>                       |                       |             |        |         |
| 日本医療薬学会 編                                           | 薬事日報社                 | 2006 年 9 月  | 231p   | ¥2,625  |
| <b>医療用医薬品品質情報集 (平成 18 年 9 月版) 付録 日本薬局方外医薬品規格第三部</b> |                       |             |        |         |
| 厚生労働省医薬食品局審査管理課                                     | 厚生労働省医薬食品局            | 2006 年 9 月  | 131p   |         |
| <b>医療用医薬品識別ハンドブック 2007 年版</b>                       |                       |             |        |         |
| じほう                                                 | じほう                   | 2006 年 10 月 | 602p   | ¥5,250  |

| 書名                                                  | 著者名             | 出版社名        | 出版年月     | ページ    | 定価      |
|-----------------------------------------------------|-----------------|-------------|----------|--------|---------|
| <b>医薬品副作用情報 第24分冊</b>                               |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 厚生労働省医薬食品局発表    | 薬務公報社       | 2006年11月 | 159p   | ¥3,780  |
| <b>医薬品 GLP ガイドブック 2006</b>                          |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 日本薬剤師研修センター 編   | 薬事日報社       | 2006年9月  | 194p   | ¥3,570  |
| <b>医薬品の臨床試験とCRC これからの創薬と育薬のために 改訂版</b>              |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 中野 重行 他編        | 薬事日報社       | 2006年9月  | 557p   | ¥5,250  |
| <b>医薬品承認申請ガイドブック 2006</b>                           |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 日本薬剤師研修センター 編   | 薬事日報社       | 2006年10月 | 613p   | ¥4,620  |
| <b>医薬品等輸入の手引き 2006</b>                              |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 医薬品等輸入監視研究会 監修  | じほう         | 2006年11月 | 204p   | ¥5,040  |
| <b>改訂増補版 機能性食品素材便覧 特定保健用食品からサプリメント・健康食品まで</b>       |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 清水 俊雄 他編著       | 薬事日報社       | 2006年9月  | 542p   | ¥11,550 |
| <b>くすりのトータルサポート～OTC薬、サプリの影響を科学する～</b>               |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 中島 恵美 編         | 薬事日報社       | 2006年10月 | 106p   | ¥1,785  |
| <b>「日本薬局方外医薬品規格第三部の一部改正について」に係る訂正について</b>           |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 厚生労働省医薬食品局長     | 厚生労働省医薬食品局  | 2006年11月 | 2p     |         |
| <b>オレンジブック 総合版'06</b>                               |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 日本公定書協会 監修      | 薬事日報社       | 2006年9月  | 280p   | ¥5,250  |
| <b>オレンジブック保険薬局版 2006年10月</b>                        |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 日本薬剤師会 編        | 薬事日報社       | 2006年9月  | 337p   | ¥4,515  |
| <b>PDR 61th ed. 2007 Physicians' desk reference</b> |                 |             |          |        |         |
|                                                     | Kevin D. Sanbom | Thomson PDR | 2006年    | 3,223p | ¥13,156 |
| アメリカの医薬品集。企業名のアルファベット順に配列。                          |                 |             |          |        |         |
| <b>先発医薬品と比較できる '06-'07 ジェネリック医薬品ポケットマニュアル</b>       |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 緒方 宏泰 他監修       | メディカルレビュー社  | 2006年10月 | 334p   | ¥3,150  |
| <b>新医薬品として承認された医薬品について (平成18年10月20日)</b>            |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 厚生労働省医薬食品局審査管理課 | 厚生労働省医薬食品局  | 2006年10月 | 2p     |         |
| <b>新医薬品等の再審査結果 平成18年度(その3)について</b>                  |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 厚生労働省医薬食品局長     | 厚生労働省医薬食品局  | 2006年9月  | 2p     |         |
| <b>新薬臨床評価ガイドライン 2006</b>                            |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 日本公定書協会 編       | 薬事日報社       | 2006年8月  | 850p   | ¥7,665  |
| <b>特定保険医療材料ガイドブック 2006年版</b>                        |                 |             |          |        |         |
|                                                     | 日本医療器材工業会 編     | 中和印刷        | 2006年11月 | 629p   | ¥27,050 |



# ＋ 情報提供一覧

平成 18 年 12 月 1 日から 12 月 31 日の期間に提供しました情報は次の通りです。  
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当  
(TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

| 情 報 提 供 一 覧                                                                                      | 発行日等      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <出 版 物 等>                                                                                        |           |
| 1. 「医薬関連情報」 12 月号                                                                                | 12 月 22 日 |
| 2. 「Regulations View」 No.136                                                                     | 12 月 22 日 |
| 3. 「JAPIC NEWS」 No.273                                                                           | 12 月 22 日 |
| 4. JAPIC 「医療用医薬品集」 更新情報 2007 年 11 月版                                                             | 11 月 30 日 |
| <速報サービス>                                                                                         |           |
| 1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」 No.564-567                                                               | 毎 週       |
| 2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)」                                                              | 毎 週       |
| 3. 「JAPIC-Q Plus サービス」                                                                           | 毎月第一水曜日   |
| 4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.1359-1377                              | 毎 日       |
| 5. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.169-172                                                    | 毎週月曜日     |
| 6. 「PubMed 代行検索サービス」                                                                             | 毎月第一・三水曜日 |
| デ ー タ ベ ー ス 一 覧                                                                                  | 更 新 日     |
| iyakuSearch < <a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a> >          |           |
| 1. 医薬文献情報                                                                                        | 月 1 回     |
| 2. 学会演題情報                                                                                        | 月 1 回     |
| 3. 医療用医薬品添付文書情報                                                                                  | 月 2 回     |
| 4. 一般用医薬品添付文書情報                                                                                  | 随 時       |
| 5. 規制措置情報                                                                                        | 毎 日       |
| 6. 臨床試験情報                                                                                        | 随 時       |
| 7. 日本の新薬                                                                                         | 随 時       |
| 8. 学会開催情報                                                                                        | 月 2 回     |
| <JIP e-InfoStream から提供> < <a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a> >    |           |
| 1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」                                                                  | 月 1 回     |
| 2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」                                                                         | 月 1 回     |
| 3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」                                                                         | 月 1 回     |
| 4. 「MMPLAN (学会開催予定)」                                                                             | 月 1 回     |
| 5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」                                                                          | 月 1 回     |
| 6. 「NewPINS (添付文書情報)」 (月 2 回更新)                                                                  | 月 2 回     |
| 7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」                                                                            | 月 1 回     |
| <JST JDream II から提供> < <a href="http://pr.jst.go.jp/jdream2/">http://pr.jst.go.jp/jdream2/</a> > |           |
| 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」                                                                            | 月 1 回     |